

11) 仕事全体は最小公倍数で  $(1200)$  とおきましょう。

全体を  $(1)$  としてもよいですが、整数で処理できる。よりカンタンに解けると思います。まあ、これは好みですね。

(1) はサービス問題!  $(1200) \div ((2) + (3)) = 240$ 日 //

12) 条件を整理すると

$\left\{ \begin{array}{l} A \text{ は 1日に } (2) \text{ の仕事で } 6000\text{円} \quad (\text{①あた} \equiv 3000\text{円}) \\ B \text{ は 1日に } (3) \text{ の仕事で } 9000\text{円} \quad (\text{①あた} \equiv 3000\text{円}) \\ C \text{ は 1日に } (6) \text{ の仕事で } 30000\text{円} \quad (\text{①あた} \equiv 5000\text{円}) \end{array} \right.$

→ つまり早くおかしせたいなら C 優先。

早くおかしせたいなら AB を優先すれば OK。

(2) は 210日が決まるとして、できただけ早く 早く。これが目標なので、できただけ A と B を動かかせればよいですね。